

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

生徒指導の視点に立った授業づくりの日常化 ～初任者の授業から～



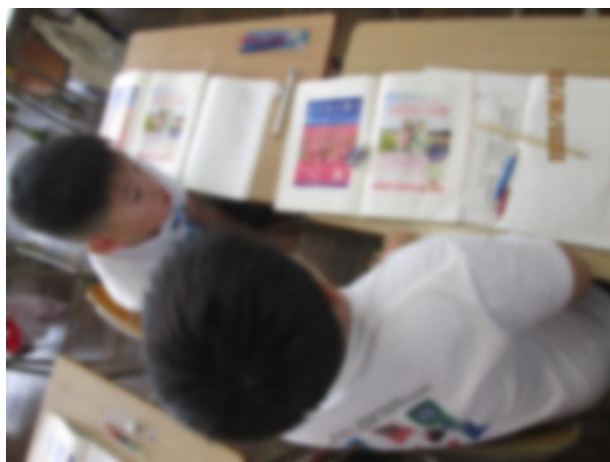
9月2日、初任者研修で国語の授業を参観しました。事前に私から初任者の先生に話をしたのは校内研修の次の3つの視点です。

- 子どもの「やりたい、知りたい、できるようになりたい」という思いを授業の出発点にする。
- 子どもそれぞれの考えや方法、個に応じた追究ができるよう「自己選択・自己決定」の場を設定する。
- 「考えを発表したり認め合える」ような授業のつくりにする。

まず、導入では「2枚のポスターのちがいについて今日は考えます」という教師からの投げかけではなく、「ポスターをつくりたい」という子どもの意欲を引き

出し、**素敵なポスターを作るための秘密を見つけよう**という学習のスタートに変化していました。さほど学習の流れに変化はないのですが、子ども主体への授業へと大きく変化していました。

学習の終末の振り返りの場面では「私も今日学習したことを生かしてポスターを作りたい」という声が多く聞かれました。「**学習したことを生かして〇〇がしたい**」と言わせる授業はまさに理想的です。



そして次の段階では、「自分なら板書の左右どちらのポスターをかくか?」という**自己選択**の場面ありました。

自己選択を行うことによって、「どうして選んだのか」その**根拠を説明する必然性**が生まれどの子ども達も上の写真のように、互いに自分の考えを発表することができていました。

さらに、**互いの考えを認め合う**ことで、どちらのポスターにもそれぞれよさがあることに気づき、「自分の目的や伝えたい相手を考えることが大切」であるということを、子ども自ら見出すことができていました。

教師の授業づくりへの意識の変化が、**子ども達の学びがいのある授業**へとつながっていました。

